

いつもご愛読ありがとうございます。いつも。  
クレードルはおかげさまで創刊10周年を迎えました。

出羽庄内地域文化情報誌「Cradle」編集長 小林好雄

「出羽庄内の魅力を地域内外に発信する」をコンセプトに2010年9月に「Cradle」を創刊以来、おかげさまでこの9月号で10周年を迎えました。地域内外の読者の皆さま、そしてサポーター、広告掲載先、「Cradle」設置協力先、行政の皆さまなどからの多くのご支援によるものと厚く御礼申し上げます。出羽庄内には豊かな自然があり、それを生かす知恵が育んだ食、そして歴史、文化があります。その魅力は日本が失いかけているものかもしれません。その魅力をできるだけ丁寧に取材し掲載しようと心がけてきました。特集などこれらを掲載したページに、皆さまから、出羽庄内の魅力を再発見したなど多くの声をいただきました。その反響が私たち制作スタッフの大きな励みとなっています。

このままでは、発行継続は難しい状況です。  
これからも出羽庄内の魅力を発信し続けるため、  
皆さまからのさらなるご支援をお願いいたします。

無料地域文化情報誌の発刊はなかなか難しい事業です。発行を支えるのは広告収入とサポーターの皆さまからの年会費ですが、それだけで発行していくのはなかなか大変で、何度も発行継続は無理なのではないながらも、ようやく10周年を迎えました。

しかしそこにコロナ禍が大きく行く手を遮りました。

観光はじめ地域経済に深刻な影響が及び、掲載するイベントが軒並み中止となり、何よりも広告が大幅に減少しました。

「Cradle」を設置する文化施設、観光施設なども休館となり、5月号、7月号はページ数、発行部数も減らしながら発刊を継続してきました。創刊10周年記念号だけとは、通常の48ページ、3万5千部に戻し発刊しましたが、このままでの発刊継続は難しい状況です。こっそり「Cradle」の紙での発行をやめ、ウェブでの配信に切り替えようとも考えましたが、やはり「Cradle」愛読者の皆さまが望まれるのは紙での発行ではないかと議論は戻りました。「Cradle」の発行を続けていくには発行部数、設置拠点、ページ数の見直し、そしてそれだけでは難しく皆さまからのさらなるご支援が必要です。

真の地方創生には、「地域自らが、その魅力を発信する力を持ち続けることが必要」と思っています。その一翼を担い、これからも出羽庄内の魅力を発信し続けていきたいと思えます。皆さまのご支援を切にお願いいたします。

## 新たなご支援のお願い

「Cradle」の発行を続けていくために、皆さまからできる範囲でのご支援をいただきますようお願いいたします。

### 1. 寄付によるご支援

コロナ禍での収入減を補い、継続発行していくためのご支援

【1口1万円～（ご支援期待額：300万円）】

ご支援への返礼品として、「Cradle」バックナンバーのほか、表紙を飾る奥田政行さんの店「アル・ケッチャーノ（鶴岡）」・「ヤマガタ サンダンデロ（東京）」共通食事券、地域を元気にする農産物・工芸品のお取り寄せクーポン券なども準備。

### 2. サポーターのご加入

毎号の発行の基礎となるご支援

【1口5千円～（ご加入期待口数：150口）】

令和2年7月末現在、個人サポーター332名、法人サポーター126名から支えていただいています。個人サポーターの地元農産物付きコースも人気です（46ページ参照）。

### 3. クレードルショップ「iino」による 地元農産品・工芸品のお取り寄せ

7月にリニューアルオープンした「iino」からご購入ください。

### 4. 皆さまのご友人へのご紹介、 ウェブページなどのシェア

「Cradle」、ウェブページ「Cradle Plus」、クレードルショップ「iino」のご紹介。

### 5. お申し込み期限 12/21(月)

※お申し込み方法、内容など詳しくは46ページをご確認ください。